

としょかんたより

【下條村立図書館 144号 2020年1月15日発行】

令和になり、初めての冬がやってきました。真冬にしてはそこまで寒くならない、ありがたいけれどもなんだか腑に落ちないような冬です。雪も降らず過ごしやすい冬。大人はありがたいけれど、子どもにとっては、大好きな雪遊びができなくて残念な冬。図書館にある雪の絵本たちも、なんだか居心地がわるそう!?です。

としょかん大好き家族 児島さんご一家

旅館「月下美人」の児島さんご一家が図書館に来てくれると、すぐにわかります。「ねえねえ！おかあさん！あったあった、あの本があった！あっ、おかあさん、〇〇くんがおった!!」元気な声でテンポよくお母さんに一生懸命伝えるようす。「はいはい、本あった？よかったです！〇〇くんいたの？よかったです！」ひとつついでに返すお母さんの理恵子さん。元気であたたかい親子の空気が、図書館に流れ込んできます！

長男の佳弦(かいと)くん(4歳・年中組)の大のお気に入りは、ロビーにある“わくわくはうす”的すべり台！

「アンパンマンのすべり台」に行くのがとっても楽しみで、「お天気の悪い日は、本当に助けられています」と理恵子さん。そして、図書館へ来れば必ず「友だちと会える」のが佳弦くんのもう一つの楽しみ。そして、もうずっと前から大好きで借りているのが“のりもの絵本”！自動車、はたらく車、船、飛行機、電車、新幹線…何でも好きでいろんなところから見つけてきます。「自動車の絵本は山本忠敬さん、電車の絵本は横溝英一さん。ずっと読んでると、作家のかたも本当に乗り物が好きなんだなあって…気持ちが伝わってきます」お母さんも、すっかり作者の名前を覚えました！

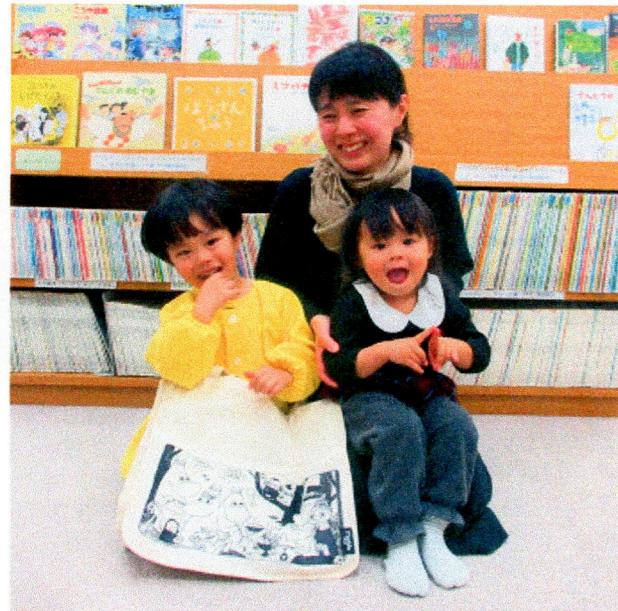
長女の愛理(あいり)ちゃん(2歳・もも組)は、『たまごのあかちゃん』が大好き！お兄ちゃんとふたり「おかあさん、『たまごのなかで かくれんぼしてるあかちゃんはだあれ？出ておいでよ』って言って！」とたのんで、ふとんの中にかくれます…「ぴっぴっぴつ ここにちは！にわとりのあかちゃん ここにちは！」と出てきて“たまごのあかちゃんごっこ”が始まります！

いつも本を借りるのは、お母さんと子どもたち。でも、きちんと返却日までに返すのは、お父さんの英人(ひでと)さん。読書手帳のシールを、貼ってくれるのもお父さんです！

児島家の絵本タイムは、寝る前に2冊、お母さんが読んでくれます。でも佳弦くんは、長いお話の絵本をたくさん(7~8冊)持ってくることも。そんなときも愛理ちゃんはいい子と一緒に聞いているうちに、すうっと眠ってしまうそうです。

京都からはるばるお嫁に来た理恵子さん、下條村で子育て奮闘中😊図書館も応援しています！

PART 118 小松原



もくじ

- 1p : 図書館大好き家族
- 2p : 飯島さん現金寄付
- 3p : 小正月飾り
- 4p : 新刊ぴっくあっぷ

飯島國昭さんより図書購入費をご寄付いただきました

このたび、飯島國昭さん(相田)より図書館へ図書等購入のための現金 71,000 円をご寄付いただきました。

このお金は飯島國昭さんの妹さんで、飯島美代子さん(友禅染色家・南宮温泉経営者)の作品から生まれたお金です。

飯島美代子さんのご紹介

飯島美代子さんは、1948 年下條村生まれ。県内の美術学校卒業後、染色家の小山二朗氏に師事。以後、阿南町の旅館「南宮温泉」を経営しながら、40 年以上制作活動に取り組んできました。

2018年秋、飯田市上郷黒田のアートハウスで3回目となる個展開催の申込み直後に体調を崩し、入院。3月の検査ですい臓がんが発覚し、5日後に亡くなられました(享年 70 歳)。

美代子さんの意志を継ごうと、友人や家族(飯島國昭さん・満子さん)らが企画した同所での遺作展には、「日仏現代美術展」の入選作品など、友人や家族が「美代子さんらしい」作品を 15 点選び展示しました(9月 8 日~17 日)。遺作展には 200 人を超える見学者が訪れ、作品を購入したいという方も多かったです。

飯島美代子さんは、自らの作品を「野道山路くさき染め友禅」と名付け、「買いたい」という人へ、下記のような言葉が書かれたカードを作品に添え渡していらっしゃったようです。

このたびの遺作展で、購入された作品が数多くあり、その代金の一部を図書館へ寄付してくださいました。

図書館では、この大切なご厚意を、子どもたちの好奇心に応え成長に役立つ図書等の購入に充てたいと考えています。

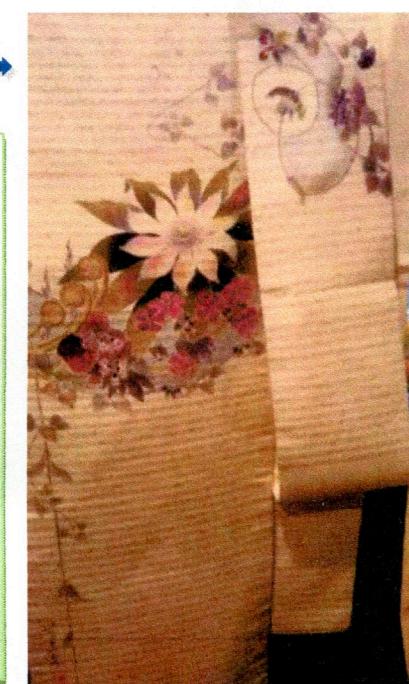
*飯島美代子さんに関する資料は、図書館のファイリング資料として保存しており、カウンターにて閲覧可能です。



アートハウス「飯島美代子遺作展」
に展示されていた作品より

野道山路物語

信州の豊かな四季の移ろいの中で
草木の葉 樹皮 花びら
実根等から色をいただき
媒染し染め上げました
自然の持つ奥深い色に喜び
はかなく消える色に時節を思い
やさしい色になぐさめられます。
手絞り 手描き ボカシ染め等
全て手作業の中で生れるものには
それぞれの面持があるようです。
山の重なり 岩蔭の花を思
くさき染めのものに
親しんでいただけたら幸いです。
……染め人より



匠の会のみなさんによる小正月飾り

1月9日午後、匠の会のみなさんが毎年恒例の小正月飾りを、あしたむらんどの入り口に飾ってくださいました。

学校帰りの子どもたちが、とっても喜んで「おいしそう！」「どうしてこれを飾るの？」「なんで十二月って書いてあるの？」と興味津々。そこで図書館の資料で調べてみました。昔の下條村では下記のような季節行事が、多くの農家で行われていたようです。(『下條村誌』より抜粋)

下條村の小正月について

◆ 小正月の年とり

農家の多い下條村では、1月14日は小正月のお年とりをしました。農業で使う道具(農具)の年とりとも言います。前日の13日には(大晦日と同じように)餅つき、鏡餅、お節料理なども準備し、農具をきれいに洗い土間へ集め並べました。

◆ おにぎ(「十二月」と書かれた木)

初山(新年最初に入った山)で迎えた木を二つに割り、「十二月」と書いて門口・畜舎・便所・水神様へ二本ずつ供えます。この木を「おにぎ」といいます。

◆ 小正月飾り

① まゆの豊作を祈る(ビンカの木)

生米を石うすでひいて粉にしたもの熱湯でかいて、まゆ玉の形にした団子をビンカの木(30~40cm)にさし、まゆの豊作を祈ります。

② 果樹の豊作を祈る(そよごの木)

3cmくらいの丸い団子をそよごの木(150cmほど)の枝にさし、カキやナシやリンゴなどの果樹の豊作を祈ります。

③ 穀物の豊作を祈る(竹の木)

のし餅を1cm四角に細かく切り、竹の木(170cmほど)の枝にさし、稻穂や粟・小きびなどが実ったように飾り、穀物の豊作を祈ります。



四角いお餅、白や紅色の団子、金柑の実に興味津々…「食べたーい！」と大きな口を開ける子どもたち。

*これらの木を石うすの穴にさし、大黒柱に結び付けて立てました。

ほんやり(どんど焼き)

① 準備

13日から子ども会が中心となり準備をします。かさのついた大きな青竹・門松・お飾りに使った松や注連縄(しめなわ)・古いお札等で紡錘形に立て、最後に紙風船・紙テープを飾り、倒れないように荒縄で支え引っ張ります。

② 当日

子どもたちは、すす払いに使った竹の先に餅や繭玉をさしたものを持って集まり、「ホンヤリホーー、ほんやり殿はばかで、出雲の国へよばられて、後で家を焼かれた、ホーー」などと囁き立てます。

☆書初め

書初めの紙を燃やし、これが空高く舞い上ると字がうまくなるといわれる。

☆無病息災・家内安全

ほんやりの火にあたると病気をしないといい、大勢で火を囲む。おきができると餅や繭玉を焼きく。焼きかけの竹を2本家に持ち帰り、1本は屋根に上げ、もう1本は翌15日のお粥をたくときに使う。

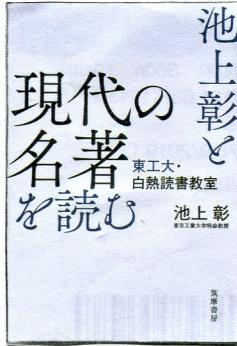
☆厄落とし

地区内で厄年にあたる人はお神酒を出し皆に飲んでもらい役を落とす。

新刊 ぴっくあっぷ



「抵抗都市」佐々木讓著 集英社／大正5年、ロシア統治下の東京で身元不明の変死体が発見された。特務巡査・新堂たちは捜査を開始するが…。日露戦争に「負けた」日本を舞台に描く、歴史改変警察小説。*Fサ



「池上彰と現代の名著を読む 東工大・白熱読書教室」集英社／現代史、AI、資本主義…。文系ジャーナリスト・池上彰と、理系エリート・東工大生が近年の名著から学び、ときに斬る?! 東工大有志で行われた「池上先生読書会」を書籍化。*019イ



「さくらももこ『ちびまる子ちゃん』を旅する」平凡社／子どもも大人も、誰もが共感する国民的人気作品「ちびまる子ちゃん」。作品の背景を徹底解明し、「昭和」という時代をひもとく。作者の過去のインタビュー、細川貂々ら愛読者によるエッセイ等も収録。*726サ



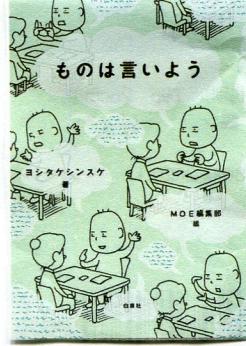
「寺田本家発酵カフェの甘酒・塩麹・酒粕ベストレシピ」寺田聰美著 家の光協会／江戸時代から続く造り酒屋「寺田本家」が営む発酵カフェで人気のメニューを中心に、甘酒・塩麹・酒粕を使ったレシピを多数紹介。砂糖・乳製品・卵は不使用の、子どもも大人も楽しめる料理が満載。*596テ



「カザアナ」森絵都著 朝日新聞出版／国の規制が強まり監視ドローンが飛び交う空のもと、タフに生きる中学生の里宇とその家族。一家は、不思議な力を持つ「カザアナ」と出会い、人々を笑顔にするささやかな奇跡を起こしていく。*Fモ



「世界のニュースを日本人は何も知らない」谷本真由美著 ワニブックス／本当は豊かなアフリカ。トランプ大統領の意外な評価。日本人が知らない日本への厳しい評価…。世界各国のイメージがガラッと変わる! 元国連職員の著者が、新聞やTVではわからない「世界の真実」を紹介する。*304タ



「ものは言いよう」ヨシタケシンスケ著 白泉社／絵本作家ヨシタケシンスケの絵本創作の秘密がすべて詰まった一冊。自身を徹底分析したイラスト解説&ロングインタビューのほか、お気に入りの本、絵本のネタ帳など、お宝資料も満載。*726ヨ



「大草直子のNEW BASIC STYLE 理論派スタイルが私服で解説!ベーシックがいつも、いつまでも新しい理由」大草直子著 三笠書房／ベーシックな服は一生素敵! アイテムの更新ルールから着まわしまで、理論派スタイル・大草直子の「考えるおしゃれ」をオール振り下ろしの144コマで紹介。*589テ



「勿忘草の咲く町で 安曇野診療記」夏川草介著 KADOKAWA／命の尊厳とは何か?高齢の患者が多い地方の小規模病院で、答えのない問いに必死で向き合う若き研修医と看護師の奮闘を描いた連作短編集。*Fナ



「人間のトリセツ 人工知能への手紙」黒川伊保子著 筑摩書房／人工知能(AI)が全知全能になる時代に、人間とは何か。AIがけっしてできないこと、AIがしてはいけないこととは。黎明期から人工知能の研究開発に携わってきた著者が語る、AIのトリセツ・自身の脳のトリセツ。*007ク



「小さな幸せがみつかる世界のおまじない」亀井英里絵 パインターナショナル／ドングリを身につける、リンゴの実をひとつ残して妖精に捧げる…。世界の風習・民俗学・神話・宗教行事などから、今も暮らしに取り入れられている幸運をもたらす50のおまじないを、美しいイラストで紹介。*147チ



「手作りの通園＆通学グッズ はじめてのママとパパでもきちんと作れる!」ブティック社／通園バッグ、上履き入れ、リコーダーケース、防災きんかばー…。子どもの通園・通学グッズを、ミシンを使わずボンドで作れるグッズも含め、作り方プロセスとともに紹介。あると便利なこものの作り方も収録。*594テ